自:2018年4月 1日 至:2019年3月31日



事業報告書2018



「ちょっといい春感じませんか」ハイキング

公益社団法人 日本キャンプ協会

目 次

2 0	18年度事業総括	. 1
ビジ	ョン2020の推進に関する取組み	. 2
	ンプの活動を発展させ、広めていく事業(公益目的事業1)	. 3
	よいキャンプを実現する指導者養成の事業(公益目的事業2)	1 3
	ンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業 (公益目的事業 3) 1. 第 22 回日本キャンプミーティングの開催 2. 定期刊行物『キャンプ研究』の発行 3. Café de CAMP (カフェ・デ・キャンプ) の開催 4. 安全に関する啓発活動	18
	事務	2 2
	CAMPING AWARD 2018 受賞者 公益社団法人日本キャンプ協会 2018・2019 年度 役員 公益社団法人日本キャンプ協会 2018・2019 年度 運営委員 事務局職員・静岡県立朝霧野外活動センター職員	3 0 3 1

2018 年度事業総括

2018 年度の日本キャンプ協会は、ここ数年に渡って続く、厳しい協会運営をふまえて、組織改革に着手し、ビジョン 2020 の推進や新規事業の開発を行った1年になりました。

<「ビジョン 2020」の推進に関する取組み>

2年目・継続の年を迎えた「ビジョン 2020」では、ビジョン推進委員会が中心となり、様々な活動が始まり、少しずつ広がり出てきています。日本協会では、課程認定団体の増強に積極的に取り組み、新規入会目標 10 団体を達成することができました。都道府県キャンプ協会の取り組みとしては、子どもの貧困や多文化共生をテーマにした「2525 キャンプ」や「ダイバーシティキャンプ」などが行われ、キャンプがもつチカラを地域に発信しました。また、第 2 回指導者研修会においては、ビジョン 2020 推進委員会と地域連携委員会が共同して研修会の企画、運営を担い、「ビジョン 2020」の更なる実践に向けて、学びを深めることができました。

<キャンプの活動を発展させ、広めていく事業(公益目的事業1)>

公益目的事業1では、ホームページの情報発信力の充実をめざし、WEB サイト検討タスクチームが編成され、プロボネット(ボランティア専門家組織)の助言を受けながら、2020年度のリニューアルに向けて、その方針の確認を行いました。朝霧野外活動センターの運営では、充実したプログラムの実施が評判を呼び、今年も数多くの方々の利用がありました。その結果、静岡県指定管理者外部評価委員会の評価結果においても、前年度を上回る高い評価を得ることができました。

くよりよいキャンプを実現する指導者養成の事業(公益目的事業2)>

公益目的事業2では、減少傾向が続くキャンプインストラクターの養成において、課程認定団体の増強などの効果により、会員数の減少にやや歩留まりの傾向が見られました。指導者会員の更新においては、指導者の高齢化や若者の資格制度離れなどの影響があり、2018年度も厳しい状況が続きました。指導者養成委員会では、「キャンプ指導者入門」テキストの一部改訂を行い、時代にあった新版テキストを発刊し、2019年度から移行することができました。また、新たな事業としては、長年に渡る指導者養成のノウハウを活かし、学校の教育現場で行われる自然体験活動の充実に協力することを目的に、2019年度からの文部科学省認定・教員免許状更新講習への参入を決定し、12月に文部科学省から講習開催団体として認可を受けました。

<キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業(公益目的事業3)>

公益目的事業 3 では、第 22 回日本キャンプミーティング、キャンプ研究などにおいて、キャンプ実践や研究報告を継続して提供しました。特に、日本キャンプミーティングでは、組織キャンプや野外教育の成果発表による情報交換の機会を設け、アウトドア関連企業などの参加もあり、今後の展開に広がりを感じることができた大会となりました。また、第 23 回の開催に向けて、ゆめ基金の申請を行い、更に地域に開かれた大会にするための準備をスタートしています。

<法人事務>

6月には、念願だった47番目の福井県キャンプ協会が誕生し、全国にキャンプ協会のネットワークが 完成することになりました。家庭にある古本や不用品をリサイクル会社に提供し、その買取り額の一部 を日本協会に寄付してもらう、古本チャリティ募金を開始しました。また、組織改革への取り組みを具 現化するために、執行理事会を集中的に開催し、2020年度以降の事業3か年戦略を立案して、協会運営 の方向性を明確にすることができました。

ビジョン 2020 の推進に関する取組み

都道府県キャンプ協会が中心となり、社会の様々な課題や変化に対応しながら、社会の隅々までキャンプの魅力を届けていくために、ビジョン 2020 を積極的に推進しました。

1.「キャンプの案内人(ガイド)」の養成

社会の隅々までキャンプの素晴らしさを伝えるキャンプ指導者の養成は、これからも欠くことができない大切な事業です。2018 年度も、キャンプの楽しさや魅力をより身近に感じてもらうために、様々なかたちでキャンプの案内人(ガイド)の養成に努めました。キャンプ指導者であるキャンプインストラクター、キャンプディレクターの養成では、多くの課程認定団体で講習会を実施しましたが、全体としては、前年比-166 名という結果になりました。指導者資格制度の在り方については、早急に見直さなければならない課題と言えます。その一方で、キャンプマイスターの活動は、アウトドアブームの追い風もあり、火おこし、サバイバル術、野外料理といった関心の高いキャンプスキルを中心に、都道府県協会で様々な活動が定着してきています。こうした動きを受けて、ビジョン推進委員会では、2019 年度からのマイスター認定事業の準備を進めています。

2.「つながるカ」「たのしむカ」「たちむかうカ」を実感できるキャンププランの提案

キャンプに備わるチカラを活用して、社会が抱える様々な課題の解決に取り組むことは、次の世代への貴重な財産となりえます。都道府県キャンプ協会では、他団体と協働して社会的な課題にチャレンジするキャンプやイベントが数多く実施されました。防災・減災キャンプ、婚活キャンプ、貧困や障がいある子どもたちのためのキャンプ、多文化共生・世代間交流キャンプなど、新しいカタチのキャンプが各地で展開することができました。また、地域にある宝(自然、文化、歴史、食、祭など)に注目して、「地域の宝×キャンプ」をテーマに、地域性のあるキャンプやデイプログラムも始まっています。

3. 社会の変化に対応して意識改革に取り組む

これからもキャンプ協会が、持続可能な組織であるためには、基盤強化は欠くことができません。自分たちが出来ることと出来ないことを精査し、これまでのやり方に囚われない意識改革を行い、必要な人やモノとのつながりを作りながら、協会運営することが重要だと言えます。こうした状況をふまえて、2018年度は、現行制度の見直しを行い、制度変更に向けての準備を進めました。具体的には、ビジョン2020の推進に加えて、事業3か年戦略を策定し、2019年度からの実施が決定し、「新たな事業収入の開発」「支出の見直しと業務の効率化」「公益性の向上、会員サービスの拡充」を目標として、組織改革の具現化に取り組むことになりました。





2525 キャンプ

キャンプの活動を発展させ、広めていく事業(公益目的事業1)

キャンプの魅力は、「楽しさ」や「新しい出会い」だけでなく、「つながる力」や「立ち向かう力」といった、人と人とが触れ合うことによって、生じる感情や感覚を共感できるところにもあります。

2018 年度は、こうしたキャンプの潜在的なチカラが、社会の各方面に広がり、キャンプの魅力を体感する人々がますます増えていくことを目指し、「ビジョン 2020」の実現に向けて、積極的な取り組みを展開しました。

1. キャンプに関連する情報の発信及び相談業務

会報誌「CAMPING」を発行するほか、WEB サイトやメールなどを活用してキャンプに関連する情報の発信に努めた。また、キャンプインフォメーションセンターを運営し、一般のキャンプ愛好者や各種メディア企業等の相談に対応するとともに、キャンプ実施などに対する支援を行った。

(1)会報誌「CAMPING」の発行

キャンプの教育的、社会的意義やキャンプの現場で役立つスキル、各地で展開されているキャンプ、本会の事業内容などの情報を掲載した会報誌「CAMPING」を隔月で発行した。

発行部数: 各号 約11,500部

号数	特 集
182	危険な生き物とのつきあい方
183	2017 年度事業・決算報告
	-Annual Report 2017-
184	おいしく たべる
185	グループワークの教え
186	幼児と自然
187	災害とキャンプ













会報誌 CAMPING

(2) WEB サイト及び公式 Facebook ページの運用

・WEB サイト (http://www.camping.or.jp) では、日本キャンプ協会の基本情報や新着情報を提供する ほか、イベントカレンダーなどを活用し、都道府県キャンプ協会等が実施する事業の紹介などを行い、 前年比 120%増の閲覧者数となった。

WEB サイト閲覧者数:延べ362,700人

• Facebook (https://www.facebook.com/ncaj.sns) では、日本キャンプ協会と社会をつなぐ窓口として、公式 WEB サイトと連動した情報提供に加え、事業の様子なども交えたよりきめ細かな情報を発信した。また、併せて Facebook 上で会員交流のための「会員のひろば」グループを開設し、会員からの情報発信の場を提供した。

(3)メールマガジンの配信

2017 年度まで使用していたメールマガジン配信システムに不具合があり、2018 年度についてはメールマガジンを休刊とし、新システムでの発行の準備を行った。

(4)キャンプインフォメーションセンター

キャンプに関する相談窓口であるキャンプインフォメーションセンターの運営を行った。一般やマスコミなどからの電話やメールによる相談に応じたほか、都道府県キャンプ協会や他団体へ講師を派遣した。また、行政関係の指定管理施設の選考委員や他団体が行うキャンプの企画、運営、指導を行う事業も積極的に受託し、日本キャンプ協会の公益性をPRすることができた。

<受託一覧>

クライアント	依頼内容	役割	日時	担当(対応)
西日本ラジオ	 ラジオ出演 	番組出演	4月	職員(五月女)
イベント制作会社	子ども向けプログラ ム依頼	企画、運営、指導	4月	職員(五月女)
Kids Diversity	キャンプ指導協力	企画、運営、指導	4月	茨城県
カタログギフト制作会社	監修依頼	監修、指導者紹介	4月	職員(五月女)、 D1 保有指導者
BSN 新潟放送	ラジオ出演	番組出演	5月	職員(五月女)
旅行代理店	キャンプ指導協力	企画、運営、指導	5 月	D1 保有指導者
保育園	キャンプ指導協力	企画、運営、指導	6 月	D1 保有指導者
日本経済新聞社	原稿協力	原稿監修、執筆	6 月	職員(五月女)
朝日新聞社	原稿協力	取材対応	7月	職員(五月女)
イベント制作会社	アウトドアプログラ ム企画指導依頼	企画、運営、指導	7月	D1 保有指導者
日本経済新聞社	原稿協力	原稿監修、執筆	9月	職員(五月女)
富士ゼロックス神奈川	子ども向けプログラ ム依頼	企画、運営、指導	10 月	職員(五月女、吉野)

2. 静岡県立朝霧野外活動センターの運営(自然体験活動実践の場の提供)

朝霧野外活動センターは、静岡県教育委員会社会教育課が所管する施設として、静岡県内外の様々な社会教育団体及び学校団体が実施する様々な研修活動を支援し、青少年教育の野外活動施設の拠点としての機能を果すことができた。また、日本キャンプ協会にとってのキャンプの実践の場としても、子どもを対象とした長期の組織キャンプを中心に、様々な人々を対象とした事業を通年で実施し、キャンプ及び自然体験活動の普及に努めた。また、日本キャンプ協会が朝霧野外活動センターの管理運営に参画して12年目となったこの年度は、これまでの活動が評価されて利用者の人数が増え、静岡県指定管理者外部評価委員会からも、前年度を上回る高い評価を得ることができた。

(1)自然体験活動事業(自主事業)の実施

「ナビゲーションスポーツ・キャンプ in 朝霧(NSCA)」は、ナビゲーションスポーツをとおして多くの人が出会い、交流する機会となることを目指して昨年度に初めて開催し、今年度は2回目の開催となった。ナビゲーションスポーツの競技者を対象としたプログラムとして、富士山麓の森林や天子山塊の山岳部をエリアに含むオリエンテーリングと、テント泊や自炊を伴うキャンプを組み合わせた新しいナビゲーションスポーツである「マウンテンオリエンテーリング」の大会を開催した。また、初心者向けのプログラムは、地図の情報を正しく読み取ることによってなぞ解きを進め、ポイントを取っていくことが出来る、オリジナルプログラムの「朝霧ナビゲーションクエスト〜M 教授からの挑戦状〜」を中心に、地図とコンパスに親しみ、大人も子どももナビゲーションを楽しむことが出来るような内容で実施した。

〈主催事業〉

青少年自然体験事業

事業名	日 程	対 象	参加者数
朝霧高原サマーキャンプ	7月1日	小学校 5~6 年生	47 人
~つながろう 富士山~	8月5日~13日	中学校 1~3 年生	47 人

野外教育指導者養成事業

事業名	日程	対 象	参加者数
野外活動プログラム実習	4月20日~21日	利用団体の担当者	50 人
対外的動力ログプム天自	11月9日~10日	及び指導者	9 人
長期キャンプ 指導者養成講習会	6月16日~17日 7月14日~15日 8月5日~13日 10月13日~14日	専門学校生 短大生 大学生	16 人
野外活動指導者養成講習会	2019年 2月9日~11日	野外教育に興味のある 人、青少年団体の指導 者、教育関係者	25 人

県民自然体験事業

事業名	日程	対 象	参加者数
ちょっといい春感じませんか	4月29日~30日	家族・小グループ	145 人
ナビゲーションスポーツ・ キャンプ in 朝霧	9月8日9日	家族・小グループ	233 人
ステキな秋をあなたに	9 日 29~30 日	家族・小グループ	116 人
オリエンテーリング in 朝霧	11月24日~25日	家族・小グループ	261 人
	11月2日~3日		28 人
	12月21日~22日		51 人
スケートキャンプ	1月11日~12日	 家族・小グループ	27 人
	1月18日~19日		51 人
	2月8日~9日		51 人
	3月8日~9日		52 人
223(ふじさん) ウォーキング	2月24日	家族・小グループ	174 人
プラネタリウムと星空探訪	3月1日~2日	家族・小グループ	64 人
スケートフェスティバル	11月4日	家族・小グループ	103 人
in あさぎり	3月3日		125 人

施設開放事業

事業名	日程	対 象	参加者数
プラネタリウム一般開放	原則毎月第3日曜日 春休み・冬休み期間	家族・小グループ	計 25 日 2, 285 人
スケート一般開放	原則毎月第3日曜日 春休み・冬休み期間	家族・小グループ	計 25 日 3,768 人
朝霧カーニバル	11月4日	どなたでも	5,418人
あさぎりっ子スケートクラブ	11月~3月の 水曜日または木曜日	センター周辺の小学校(5 校)に通う児童とその家族	計 34 日 443 人

社会問題に対応した事業

事業名	日程	対 象	参加者数
ナットナトンプ	2月12日~14日	不登校児童・生徒	3 人
ホッとキャンプ	3月5日~7日	引きこもりがちな青年	5 人

自然環境保全に配慮する事業

事業名	日程	対 象	参加者数
走れば山が美しくなる	通年 事業開催時	事業参加者	1,002人



長期キャンプ指導者養成講習会



スケートキャンプ

(2)受け入れ事業の支援

朝霧野外活動センターを利用する社会教育団体及び学校団体に対して、実地踏査や事前の利用打ち合わせも含めて、それぞれの団体の利用目的や団体の状況に合わせたきめ細かい支援を実施した。各活動の運営方法、計画の立て方、実地踏査の行い方、安全管理と危機管理の方法及び実際のプログラム運営の支援等、研修の実施にあたって必要となる事柄について、個別に対応し、利用団体の実施する研修活動がより効果的なものとなるようサポートに努めた。

利用者数の推移(施設全体)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2016	2,915	6,756	8,337	10,936	10,278	8,066	5,803	5,213	3,420	2,614	2,727	6,270	73,335
2017	2,883	5,857	8,655	10,684	9,396	9,853	6,182	6,161	3,062	2,894	2,358	5,660	73,645
2018	2,566	5,359	8,386	12,021	9,157	9,099	6,886	5,912	3,383	3,037	2,312	5,890	74,008
前年比	-317	-498	-269	1,337	-239	-754	704	-249	321	143	-46	230	363

<本館棟>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2016	2,744	4,581	5,639	6,794	5,636	4,714	4,982	4,984	3,006	2,450	2,475	5,755	53,760
2017	2,787	3,946	6,128	6,567	4,982	5,313	5,179	5,893	2,699	2,722	2,077	5,121	53,414
2018	2,458	3,951	6,047	6,865	5,181	4,785	5,182	5,659	2,952	2,724	2,085	5,147	53,036
前年比	-329	5	-81	298	199	-528	3	-234	253	2	8	26	-378

<キャンプ場>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2016	171	2,175	2,698	4,142	4,642	3,352	821	229	414	164	252	515	19,575
2017	96	1,911	2,527	4,117	4,414	4,540	1,003	268	363	172	281	539	20,231
2018	108	1,408	2,339	5,156	3,976	4,314	1,704	253	431	313	227	743	20,972
前年比	12	-503	-188	1,039	-438	-226	701	-15	68	141	-54	204	741

利用団体数の推移(施設全体)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2016	24	44	63	83	76	52	35	39	56	48	42	80	642
2017	19	41	58	70	76	65	34	53	52	43	44	72	627
2018	18	41	59	90	80	63	41	57	70	59	51	74	703
前年比	-1	0	1	20	4	-2	7	4	18	16	7	2	76

<本館棟>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2016	18	26	36	53	50	29	27	34	46	45	38	70	472
2017	17	23	37	44	42	36	24	48	45	40	39	60	455
2018	12	24	38	53	40	33	26	51	58	51	44	62	492
前年比	-5	1	1	9	-2	-3	2	3	13	11	5	2	37

<キャンプ場>

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2016	6	18	27	30	26	23	8	5	10	3	4	10	170
2017	2	18	21	26	34	29	10	5	7	3	5	12	172
2018	6	17	21	37	40	30	15	6	12	8	7	12	211
前年比	4	-1	0	11	6	1	5	1	5	5	2	0	39

(3)プログラム開発

- 1) 遠藤知里氏(常葉大学短期大学部准教授)の協力で、保育科の大学生がスタッフを務める幼児キャンプ(とことこキャンプ)を、7月と9月に2回実施した。この事業はとことこキャンプ実行委員会の主催とし、センターはその委員会のメンバーとして、会場提供と広報を主に担当した。
- 2) 朝霧野外活動センターと隣接する朝霧アリーナ(富士宮市の公園) をエリアとするオリエンテーリングコースを1つ新たに作成した。
- 3)地図とコンパスを活用する新たなハイキングプログラムの作成、施設内マウンテンバイクコース の設定及び地域資源の情報の収集・整理については、次年度も継続して取り組む課題とした。





「ナビケーションスポーツ・キャンプ in 朝霧」 朝霧マウンテンオリエンテーリング はじめてのナビゲーションスポーツ

(4)地域との協働

- 1) これまでに、隣接する富士丘地区をはじめ近隣地域と深めてきた信頼関係のもと、近隣地域の住民が進めている朝霧高原地域の景観整備等の取り組みにも参画した。
- 2)地域の住民や周辺施設の職員等を招いて地域懇談会を開催し、朝霧野外活動センターの運営状況を説明するとともに、センターの運営に関する意見や提言を募り、運営に生かすことができた。
- 3) 国立中央青少年交流の家が推進する「静岡子ども体験フェスティバル」の開催に協力して、朝霧 野外活動センターを会場にして、朝霧カーニバルと同日程で開催した。





「朝霧カーニバル」

マシュマロ焼き

トラクター試乗

(5)安全対策

- 1) 感染性胃腸炎の集団発生に対応するための安全対策マニュアルを新たに作成した。
- 2) 管理体制図及び事故・災害対応マニュアルにクマ対策の項目を追加した。





「ちょっといい春感じませんか」 しいたけ菌うち 木登り

(6) 外部評価委員会評価結果

総合評価 A [9段階評価 A⁺, A, A⁻, B⁺, B, B⁻, C⁺, C, C]

	評 価 項 目	評	価ポイント	`
	評 価 項 目	30 年度	29 年度	28 年度
iii	平価の総括	A	A	A
	① 青少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の管理	A	A -	A
項	② 青少年教育施設として安全・安心・快適に利用できる施設の運営	A	A	A
目別	③青少年の健全な育成を図る事業の運営	A^+	A	A
評価	④学校利用への適切な対応	A	A	A -
ІЩ	⑤青少年教育施設としての目的にあった活動の展開	A +	A ⁺	A -
	⑥安全な野外活動実施のための取組について	A	A	

※平成28年度までは、項目別評価⑥は設けていない。

(参考) 9 段階評価 ポイント記号の意味

記号	意味	その他
Α	十分満足できる	ABC に対し、必要に
В	おおむね満足できる	応じて+-の付加
С	努力を要する	記号を付ける。

3. 都道府県キャンプ協会の活動支援(地域の関係団体との連携)

都道府県キャンプ協会の会員同士の交流が深められるよう、都道府県キャンプ協会の広報活動などの 支援を行った。都道府県キャンプ協会がブロック毎に行うキャンプ事業に対しては、資金的、人的なサ ポートを実践した。

・ブロック単位の事業活動に対するサポート

ブロック名	日程	主管協会	内容
北海道・東北ブロック	11月3日	宮城県	ブロック会議―活動報告、制度変更説明、
			情報交換など(出席者8人)、宮城県キャ
			ンプ協会設立30周年記念事業、リレート
			ーク「キャンプのちから」〜被災地児童
			支援キャンプ〜、祝賀会(参加者 48 人)
関東ブロック	12月2日	埼玉県	研修会「キャンプにおけるハラスメント」
			(講師:佐藤繁一氏)、ブロック会議―活
			動報告、制度変更説明、情報交換など(出
			席者 18 人)
中部・北陸ブロック	2019 年	静岡県	ブロック会議―活動報告、制度変更説明、
	2月23日~24日		情報交換など(出席者 12 人)、ナビゲー
			ションスポーツ体験、プラネタリウム鑑
			賞、ミニロゲイニングなど
近畿ブロック	9月8日	大阪府	ブロック会議―活動報告、ビジョン 2020
			の協働、情報交換など(出席者 15 人)
中国・四国ブロック	9月29日	広島県	ブロック会議―活動報告、制度変更説明、
			情報交換など(出席者 15 人)、キャンプ
			リーダークラフトセミナー (50人)
九州・沖縄ブロック	2019年	福岡県	ブロック会議―活動報告、次期ブロック
	2月23日		理事の件、情報交換など (出席者 13 人)、
			九州キャンプミーティング(参加者 50
			人)、記念講演会「涙も笑いもちからにな
			る~講演:副島賢和氏」(参加者 100 人)、
			福岡県キャンプ協会 30 周年記念祝賀会
			(出席者 70 人)

・会報同封サービス(会報誌等を CAMPING に同封して会員に安価に送付するサービス)の提供

各都道府県協会が会員に対する情報発信を行いやすくなるように、都道府県協会の会報等を 「CAMPING」に同封して発送するサービスを提供し、各協会の広報活動を支援した。

利用した都道府県協会の数 27 協会 のべ発送点数 22,960 点

・WEB サイト用サーバー及び専用メールアドレスの提供

各都道府県協会にメールアドレスとウェブサーバーを提供し、インターネットを利用した情報提供、 情報交換を容易に行えるよう支援した。

4. 出会いと体験の森へ第8期(他団体と共同で行う事業)

日本YMCA同盟、東京YWCA、ボーイスカウト日本連盟、ガールスカウト日本連盟、日本キャンプ協会の青少年教育団体が協力して、「出会いと体験の森へ」事業を実施した。今年度は、日本YMCA同盟が幹事団体となり、YMCAキャンプ100年事業と一体となった記念シンポジウムを行った。

・YMCA キャンプ 100 年記念シンポジウム

日 時:2018年11月17日(土)~18日(日)

会 場:東京 YMCA 山中湖センター(山梨県南都留郡)

参加者:66人(講師·実行委員含)





出会いと体験の森へ「YMCA キャンプ 100 年記念シンポジウム」

5. 国外の情報の収集と提供

国際キャンプ連盟やアジア・オセアニア・キャンプ連盟等の国際ネットワークを活用して情報の収集を行い、会員をはじめ広く一般にキャンプ情報を提供した。特に 2018 年度は、2019 年度に国際会議を開催するマレーシアとの情報交換を行い、国内に向けた国際会議の情報提供を開始した。

6. 安全啓発キャンペーン

キャンプを楽しく有意義な活動とするために、一人ひとりの安全意識を高めることを目的に、7月第3日曜日の「キャンプ安全の日」を中心に、7月・8月を安全啓発キャンペーン期間として定め、安全啓発を行った。

- ・キャンペーン期間:2018年7月1日(日)~8月31日(金)
- ・キャンプ安全の日:2018年7月15日(日) ※7月第3日曜日
- ・キャンペーンチラシ、ロゴ、「安全なキャンプのために」などの小冊子の提供による 広報活動 (WEB サイト、Face book、報道機関) の全国展開
- ・都道府県キャンプ協会での安全啓発活動 防災キャンプ(高知)、緊急時サバイバル術の地元紙での紹介(広島)など

7. 都道府県キャンプ協会に対するキャンプ用品・用具の配備

安全で楽しいキャンプを行うために、一般財団法人日本宝くじ協会からの助成金を受けて、希望する 全国の都道府県キャンプ協会にテントの配布を行った。これらのテントは、都道府県キャンプ協会が主 催するキャンプ、指導者講習会、イベントなどで幅広く活用された。

配布件数:41 都道府県キャンプ協会 3種88張



よりよいキャンプを実現する指導者養成の事業(公益目的事業2)

キャンプの楽しさを伝え、その有用性を引き出し、キャンプに参加する人々の喜びと心身の成長に寄与することのできるキャンプ指導者の養成は、これからもキャンプ協会の大切な事業です。

2018 年度も、キャンプの魅力を伝える指導者養成の拡充を目指し、これまでの事業の見直しと新たな事業を展開しました。

1. 公認指導者養成

(1)キャンプインストラクター養成講習会(課程認定団体A・B・C団体による実施)

都道府県キャンプ協会(A団体)による養成数	446 人
課程認定校・社会教育団体等(B・C団体)による養成数	1,598人
合 計	2,044 人

- ・2,550人の養成目標に対し2,044人の養成が行われ、達成率80.1%であった。
- ・昨年の養成数 2,160 人と比較し、116 人減少している。

(2)キャンプディレクター2級養成講習会

【A団体による実施】

主催県	日程	受講数	会 場
石川県	4月28日(土)~30日(月祝)	7 人	石川県立白山青年の家 (石川県白山市八幡町)
埼玉県	5月18日(金)~20日(日)	中止 (定員に満たず)	埼玉県立加須げんきプラザ (埼玉県加須市花崎 456)
東京都	11月23日(金祝) ~ 25日(日)	16 人	ヒゲッチキャンプ場 (埼玉県児玉郡神泉村)
北海道	11月30日(金) ~ 12月2日(日)	5 人	札幌市青少年山の家 (北海道札幌市南区)
大阪府	2月9日(土) ~ 11日(月祝)	2 人	吉野宮滝野外学校 (奈良県吉野郡吉野町)
福岡県	2月9日(土) ~ 11日(月祝)	12 人	北九州市立玄海青年の家 (福岡県北九州市)

^{※2017}年度 9会場53人

【B・C団体による実施】

団体名	受講数
千葉大学 (B団体)	1人
桃山学院大学 (B団体)	1人
北翔大学(B団体)	14 人
大阪体育大学(B団体)	1人
国際自然環境アウトドア専門学校(B団体)	6人
仙台大学(B団体)	8人
国際武道大学(B団体)	1人
広島YMCA野外教育センター (C団体)	3 人

※2017年度 8校45人

(3)キャンプディレクター1級養成講習会(日本キャンプ協会による実施)

日程	受講数	会場
9月15日(土)~17日(月祝)	中止(定員に満たず)	吉野宮滝野外学校
11月16日(金)~18日(日)	12 人	国立オリンピック記念青少年総合センター

※2017年度 1会場13人

(4)キャンプディレクター1級検定会(日本キャンプ協会による実施)

日程	受講数	会場
1月19日(土)~20日(日)	11 人	国立オリンピック記念青少年総合センター
2月16日(土)~17日(日)	4 人	神戸市青少年会館(兵庫県神戸市)

※2017年度 2会場15人





キャンプディレクター1級養成講習会

2. キャンプ指導者の審査・認定及び更新

【資格申請者の審査・認定】

資格名	キャンプ	キャンプ	キャンプ
認定日	インストラクター	ディレクター2 級	ディレクター1 級
5月2日		14	2
6月14日		13	
7月2日		2	
7月26日		2	1
8月30日		1	
10月15日		3	
10月25日		1	
12月27日		6	
1月31日		4	1
3月1日		3	5
合計(人)	2, 044	49 (35)	9 (6)
目標人数	2, 550	70	30

※ () は4月に審査・認定した人数

【指導者資格(インストラクター・ディレクター)の更新】

目標人数 7,600 人

キャンプ	キャンプ	キャンプ	合計(人)
インストラクター(CI)	ディレクター2 級(D2)	ディレクター1 級(D1)	
3, 936	1, 470	1,013	6, 419

※2017 年度 CI: 4,063 人、D2: 1,537 人、D1: 1,038 人、合計 6,638 人

課程認定団体数

(単位:団体)

A団体	B団体	C団体
47	115	17

※2017 年度 A 団体: 46 団体、B 団体 117 団体、C 団体 6 団体

課程認定団体の審査・認定

新規課程認定団体目標数 10 団体

No	審査会日程	課程認定団体名
1	4月26日	C団体 NPO 法人ガイア自然学校(石川県)
2	5月17日	B団体 大原簿記情報ビジネス医療福祉保育専門学校(山梨県)
3	6月9日	A団体 福井県キャンプ協会
4	7月1日	B団体 日本体育大学 野外スポーツ研究室(東京都)
5	8月24日	B団体 仙台大原簿記情報公務員専門学校(宮城県)
6	8月24日	B団体 山村学園短期大学(埼玉県)
7	12月1日	C団体 福岡市キャンプ協会(福岡県)
8	12月1日	B団体 岐阜経済大学(岐阜県)
9	1月31日	B団体 平成国際大学 高野研究室 (埼玉県)
10	1月31日	B団体 名古屋医健スポーツ専門学校(愛知県)
11	3月1日	B団体 東京 YMCA 社会体育・保育専門学校(東京都)

※2017年度 8団体入会

普通会員 (団体)

	No	入会日	団体名
Ī	1	7月26日	株式会社ビルドアップ
	2	1月25日	一般社団法人 セルズ環境教育デザイン研究所

3. 指導者養成のためのテキスト発行

キャンプインストラクターの指導者養成テキストである「キャンプ指導者入門」の部分改訂を、指導 者養成委員会が中心となって行い、2019 年 4 月から新しいテキストに移行することができた。

4. 課程認定団体向け研修会

課程認定団体指導者養成担当者を対象に、カリキュラムに則った養成が行えるよう研修会を開催した。 今回は、本会の指導者養成の現状や申請手続きの説明に加え、引間紀江講師によるキャンプ指導者入門 テキストを使った、ワークショップ型読書会を行った。研修会後半では、各課程認定団体別のグループ に分かれて、情報交換と交流を深めた。

日 時:2018年6月9日(土)

会場:国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

参加者:33 団体(35人)

5. 都道府県キャンプ協会指導者研修会

全国の都道府県キャンプ協会の実務を担当する指導者が集まり、日本協会の事業方針を共有し、継続的な指導者養成、協会運営を可能にするための研修を行った。10月の第2回研修会では、地域連携委員会とビジョン推進委員会が共同で研修会の企画、運営を行い、「ビジョン 2020」の実践的な導入に向けてワークショップを行った。また、理事の田中廣喜さんによる、地域にある宝(自然、文化、歴史、食、祭など)に注目した「地域の宝×キャンプ」の可能性を再発見する研修などを実施した。

日 時:第1回 2018年6月10日(日)

会場:国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

参加者:66人

日 程:第2回 2018年10月27日(土)~28日(日)

会場:国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

参加者:68人





第2回都道府県キャンプ協会指導者研修会

6. 都道府県キャンプ協会の実施する BUC 事業等の承認及び支援

キャンプスキルのアップと指導者の交流を目的に実施する事業のうち、所定の条件を満たすものを BUC(Brush Up & communication)事業と認定し、必要に応じて支援を行った。

年度	BUC 事業数	参加登録者数	実施事業協会数※
2018	137	1, 352	41
2017	138	1, 310	46
2016	129	1, 288	45

※実施協会数には日本キャンプ協会を含む





Brush Up & Communication 事業

7. 課程認定団体の増強への取り組み

日本キャンプ協会公認指導者資格の取得機会を拡大するため、課程認定団体の増強に向けた取り組みとして、全国の大学や専門学校、野外教育団体へ広報を積極的に行い、目標数である 10 団体の入会を達成することができた。

発送数:616通(2018年7月)

新規課程認定団体入会数:11 団体(P15参照)

8. 指導者養成制度改良に向けた検討

現行の指導者養成制度の見直しについては、事業3か年戦略の中の重要課題と位置づけ、2019年度に 検討を行い、2020年春までに答申を行う方向で準備を進めることを確認した。

9. 教員免許状更新講習への参入の検討

教育現場で行われる自然体験活動などの指導に貢献することを目的に、文部科学省が認定する教員免許状更新講習への申請手続きを行った。その結果、2019年度から全国7会場(8回実施予定)で開催することが承認された。

キャンプの質の向上につながる研修及び調査研究の事業(公益目的事業3)

キャンプの普及を進めるためには、キャンプや指導者の質を高めることが、常に求められます。そのためには、指導者自身が新たな実践や専門的な研究結果に学ぶことが重要です。

2018 年度は、日頃からキャンプや野外教育を実践する者、研究する者がその成果を持ち寄り、発題や発表、情報交換する機会を提供しました。また、キャンプという分野だけに限定せず、「ビジョン 2020」の拡大のために、異業種の個人や団体との協働を試みた年となりました。

1. 第22回日本キャンプミーティングの開催

22 回目を迎えた日本キャンプミーティングは、様々な地域、分野、立場で活躍しているキャンプ関係者が集い、日頃の実践や研究の成果を発表し、参加者間の情報交換や情報共有ができる機会として定着してきている。今回は都道府県キャンプ協会からの発表もあり、より日本キャンプ協会ならではという面を打ち出すこと、そして NPO などの市民活動をサポートしている弁護士の方との協働、企業を巻き込むといった新しい挑戦を行うことができた。

日 時:2018年6月10日(土)

会場:国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

参加者:104人(実行委員・発表者含)

発表題数:22題

講演会:「うんこはごちそう ~人と自然の共生は野糞から~」 講 師 伊沢 正名(糞土師)

[ポスター発表]

研究・実践発表 16 題

森の幼稚園など自然保育における野外活動の知識と技術の実践

こども英語教室ラボ・パーティ ファミリーキャンプ実践報告

キャンプファイヤーにおける民俗芸能のレクリエーションとしての活用

キャンプ指導者向けのスノーキャンプ・スキーイベントに関する研修事業の試み

第11回国際キャンプ会議 in Sochi・Russia と ICF の活動の報告

西表島 LNT プロジェクト

アウトドアリーダーシップに関する文献研究

危険な動植物の識別に関する研究

大正時代から昭和時代戦前期における社会事業の組織キャンプ(第2報)

青少年教育施設における指定管理者制度の導入の状況と課題

参加児童生徒のもつ組織キャンプ経験の自伝的記憶―自伝的推論に着目して―

Enjoy Camping! キャンプを楽しむたっぷり学ぶ

静岡県キャンプ協会

持続可能な協会運営の知恵と工夫 愛知県キャンプ協会のとりくみ

近畿ブロックにおけるビジョン 2020 の実施情報

広島県キャンプ協会の取り組み

団体・活動紹介等2題

スペシャルニーズ・キャンプ・ネットワーク

北海道キャンプ協会若手指導者団体「えぞっぷ」

[ワークショップ発表] 3題

目からウロコの SAM スプリント固定法

誰でも手軽に自然体験活動が指導できるアウトドアゲーム「アイオレシート」の紹介

企画博覧会『ヒアリとその他の危険生物展』 & 危険生物お悩み相談会

抄録集:1,400 部発行 参加者及びキャンプディレクター1 級指導者へ郵送





第22回日本キャンプミーティング

2. 定期刊行物『キャンプ研究』の発行

会員の研究や活動の発表のひとつ機会として、また、キャンプ関係者への情報提供を目的として、『キャンプ研究第22巻』を発行した。キャンプディレクター資格保有者に冊子を配布するとともに、PDF版をWEBサイトで公開し、広く一般にも読まれるよう公開した。

研究論文

危険な動植物の識別に関する研究

(甲斐知彦・畠中彬)

大学生を対象とした短期野外教育プログラムの教育効果に関する研究

-大学生不登校問題に着目して-

(川畑和也・築山泰典・福満博隆・橋本和俊)

実践報告

組織キャンプのプログラムと教育効果 - 南会津チャレンジキャンプの実践を事例としてー (坂谷充・渡邉仁・福富優・佐藤冬果)

中華人民共和国の小学生を対象とした自然科学学習プログラムデザインの検討

(西海太介・白濱真友)

北海道キャンプ協会が取り組む次世代へのバトンリレー

一次世代野外教育指導者団体「えぞっぷ」ー

(徳田真彦・山田憲克・木田貴浩・竹内健人・中村隆・長江孝・長江集子・村上彩奈・山田啓貴)

野外教育分野を学ぶ学生ネットワークが果たす新たな「学びの場」としての機能

一「大学間交流スキーキャンプ」の活動報告

(徳田真彦・佐藤冬果)

青少年教育施設で発生した冬期の傷病に関する調査報告

(谷正之)

Leave No Trace を意識した、キャンプにおける食器洗いの実践

子どもの野外体験活動を促進する「鬼ごっこ遊び」の実践とその成果

(寺田達也)

発行日: 2019年2月15日(金)

発行数:3,000部

キャンプディレクター1級及び2級指導者へ郵送

(別途 PDF 版をウェブサイトで公開)



キャンプ研究第22巻

3. Café de CAMP (カフェ・デ・キャンプ) の開催

キャンプに関心がある人たちが集まり、講師を囲んで自由に意見交換を行い、学びあう場として Café de CAMP を開催した。2018 年度は、特に外部の団体と協働し、日本キャンプ協会の認知度の向上や、会員の方との直接コミュニケーションによるファンの創造、新しいトピックの提供を目指し行った。

継続して参加者の満足度は高い内容となっており、引き続き、気軽に参加できて、充実した内容のキャンプイベントとして育てていきたい。

口	日程	テーマ	参加者	
1 C H 02 H (-L)		アイスブレイクシェアスル	12 人	
1 6月23日(土)	※協力:横浜市野外活動指導	※協力:横浜市野外活動指導者協議会	12 /	
2	12月3日(日)	東京ゴミ拾いセミナー	11 1	
2	12 月 3 日(日)	※協力: NPO 法人海さくら	11 人	
3	3月3日(日)	「キャンプ飯×岩塩」	7人	

※ 会場:第1回 横浜市三ツ沢公園青少年野外活動センター

:第2回 国立オリンピック記念青少年総合センター

:第3回 小金井公園BBQ場





Café de CAMP2018

4. 安全に関する啓発活動

キャンプを安全に行うための情報(ハンドブック、小冊子)提供を、PDF 版の WEB サイト公開や送付などで継続して行った。また、安全に関する最新情報や研究、調査結果を、日本キャンプミーティング、指導者講習会、Café de CAMP などで紹介した。

法人事務

本会の事業が適正に行われるよう、また都道府県キャンプ協会及び関係団体との円滑な協働が図れるよう、必要な日常業務を行った。

1. 諸会議の開催

会議名	回数	日程・会場等			
定時社員総会	1	6月9日			
理事会	3	5月19日・6月9日(臨	話時)・3月9日		
監査	1	5月18日			
劫行理事合	7	5月2日・7月2日・7月26日・9月21日・12月1日・1月31日・			
執行理事会 7		3月1日			
	8	全ブロック	6月10日 · 10月28日	東京(NYC)	
		近畿ブロック	9月8日	大阪府大阪市	
		中国・四国ブロック	9月29日	広島県安芸郡	
ブロック会議		北海道・東北ブロック	11月3日	宮城県仙台市	
		関東ブロック	12月2日	埼玉県さいたま市	
		九州・沖縄ブロック	2月23日	福岡県北九州市	
		中部・北陸ブロック	2月23日	静岡県富士宮市	

運営委員会等

会議名	回数	日程・会場等
CAMPING 編集委員会	4	6月14日・8月27日・12月6日・3月18日
指導者養成委員会	3	5月17日・7月9日・12月17日
ビジョン 2020 推進委員会	4	6月10日・9月2日・10月29日・11月9日 (web)
地域連携委員会	2	9月2日・3月24日
総務委員会	2	12月1日・1月15日
キャンプミーティング実行委員会	3	4月26日・5月31日・2月26日
WED A / L Wat b a b	6	6月4日・6月18日・7月31日・9月26日・
WEB サイト検討タスク	O	11月1日・12月4日

[※] 特に表記のない場合、東京・国立オリンピック記念青少年総合センター(NYC)で実施

その他の会議

会議名	回数	日程・会場等
事務局会議	12	月1回(原則第4木曜日)
出会いと体験の森へ実行委員会	4	5月11日・7月5日・10月16日・3月28日
	4	(日本YMCA同盟)

中央青少年団体連絡協議会(世話人会)	7	4月3日・6月1日 (国際ユースキャンプ 組織委員会準備会) 6月15日・7月24日 (文科省)・8月10日・8月21日・ 2月4日 (兼・新年互礼会)
--------------------	---	--

静岡県立朝霧野外活動センター関係

会議名	回数	日程・会場等
県立青年の家等所長会	4	5月25日・6月18日・9月5日・3月8日
静岡県青少年教育施設協議会 所長会	4	4月6日・7月20日・10月12日・2月15日
主席会	4	4月19日・6月14日・10月17日・2月19日
県庁合同会議	1	4月6日
安全対策委員会	2	5月14日・9月11日
外部評価委員会	2	11月1日・3月11日(評価伝達式)
全国青少年教育施設所長会議	1	12月6日~7日
体験活動安全管理研修	1	5月23日~25日
東海北陸地区青少年 教育施設協議会研修会	1	11月8日~9日(運営研究大会)
静青協職員研修会	1	1月23日~24日
東部社会教育基礎研修兼東部社会 教育関係者等研修会	1	6月20日
社会教育実践研修	1	8月29日~30日
地域懇談会	1	11月16日
食堂定期協議会	3	10月3日・10月11日・2月14日
静岡市自然の家運営協議会	1	2月1日
「体験の風をおこそう」推進事業 実行委員会	2	7月25日・2月7日

2. Monthly Report

キャンプ協会の関係者を対象に、キャンプ協会の情報や動静を共有を目的とした Monthly Report を 月 1 回(計 12 回)発行した。

3. 日常法人業務

円滑な事業推進のため、以下の日常業務を行った。また、協会の財政状況を見据え、事業3か年戦略のひとつ、支出の見直しと業務の効率化について、取り組みを始めた。

<法人事務主な業務>

会員管理/会費収納/事業方針・計画・予算の管理/日常経理事務/助成金事務/人事管理/諸規定の整備/内閣府への各種報告/他団体との渉外窓口

4. 各種団体等への協力・共催・後援

団体名	事業名	種別
愛媛県キャンプ協会	2018 年度キャンプインストラクター養成講習会	後援
(公財)横浜市体育協会	横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座 平成 30 年度アウトドアリーダー養成講習会	後援
	アウトドアゲーム指導法講習会	後援
スペシャルニーズ・キャンプ・	リース遠征隊ガルフピッゲンの夢	
ネットワーク	ドキュメンタリー映画上映会&講演会	後援
日本木材青壮年団体連合会	ウッドトランスフォームシステムコンペティション	後援
岩手県キャンプ協会	平成30年度ファミリーキャンプ	後援
東京都キャンプ協会	東京キャンプフェスティバル2018	後援
広島県キャンプ協会	キャンプリーダークラフトセミナー	後援
(公財) 日本レクリエーション協会	第72回全国レクリエーション大会	後援
愛媛県キャンプ協会	音楽♪交わり♪と♪おいしいキャンプのご案内	後援
山梨県キャンプ協会	第3回親子で楽しいキャンプ生活体験	後援
(一財) 日本宝くじ協会	宝くじテント助成事業の完了報告書など	実施
石川県キャンプ協会	いしかわキャンプフェスティバル	後援
千葉県キャンプ協会	ちばシティ サバイバルキャンプ	後援
岐阜県キャンプ協会	集え、キャンプの仲間	後援
兵庫県キャンプ協会	ひょうごキャンプフェス	後援
大阪府キャンプ協会	2018 年度リスクマネジメントセミナー	後援
福岡県キャンプ協会	2018 福岡県キャンプ大会 in 北九州	後援
福岡県キャンプ協会	福岡県キャンプ協会設立 30 周年記念講演会と記念式 典・祝賀会	後援
秋田県キャンプ協会	チャレンジスノウキャンプ2019	後援
福井県キャンプ協会	ワークショップキャンプ"SA・I・KO・U"	後援
愛媛県キャンプ協会	音楽♪交わり♪と♪おいしいキャンプ	後援
福島県キャンプ協会	キャンプインストラクター養成講習会	後援
(公財)修養団	SYDボランティア奨励賞(第 14 回)	後援
(公財)修養団	SYDきらめきメッセージ全国コンクール(第5回)	後援
(公財)修養団	青年ボランティア・アクション in フィリピン	後援
(公財)修養団	幸せの種まきキャンペーン(出前講座/課外授業)	後援
(公財)修養団	子ども自然体験キャンプ≪全国8会場≫	後援
(公財)修養団	東日本大震災被災地訪問青少年ふれあいボランティア	後援
(公財)修養団	全国青年ボランティア・アクション in 福島	後援
(公財)修養団	全国青年ボランティア・フェスティバル	後援
(公財)修養団	全国青年ボランティア・フォーラム	後援
岩手県キャンプ協会	キャンプインストラクター養成講習会	後援
石川県キャンプ協会	キャンプインストラクター養成講習会	後援

CAMPING AWARD 2018 受賞者 (13 人、1 団体)

浅野 恵美 氏

一般社団法人宮城県キャンプ協会 副会長

平成 10 年 10 月 17 日の宮城県キャンプ協会設立以降、理事として協会運営に携わり、平成 14 年度 からは副会長に就任、主に指導者養成担当役員として、キャンプインストラクター養成講習会及び BUC 事業の企画運営に携わり、会員の確保や人材育成に尽力されています。東日本大震災の翌年度から平成 28 年度まで、社会貢献事業として取り組んできた「被災地児童支援事業」においては、対象 地域の保護者との繋がりを築くとともに、子どもたちや保護者との橋渡し役となり、信頼関係の確立 に努められました。本事業が 5 年間に渡り継続し、完結できたことは、浅野氏の多大な功績のひとつと云えます。

また、宮城県キャンプ協会の一般社団法人化の設立準備委員にも参画し、平成 25 年 12 月 17 日の一般社団法人移行後は、副代表理事として協会運営に尽力され、特に、広報活動の強化を重視し、ホームページ(カンパンブログ)や Facebook を活用した協会事業のリアルタイムでの掲載を通して、参加者や参加できなかった方にも事業内容を紹介できる体制を確立したことも、多大な功績と云えます。

(推薦団体:一般社団法人宮城県キャンプ協会)

鈴木 雄一郎 氏

山形県キャンプ協会 副会長

現・山形県キャンプ協会会長の鈴木雄一郎氏は、山形県キャンプ協会の前身である、山形県野外指導者連絡協議会の時代から青少年へのキャンプ指導を行う傍ら、山形県キャンプ協会の設立にも尽力されました。山形県キャンプ協会の創成期から活躍され、2016年に行われた山形県キャンプ協会30周年記念では、その中心となり活躍され、盛大に記念式典を行うことができました。30年以上に渡り、キャンプや野外活動の楽しさを伝え、青少年の健全育成にあたってこられました。また、地元のスポーツ少年団においてテニスの指導も行うなど、社会教育活動にも熱心に取り組まれています。見事なリーダーシップで今なお協会を支えておられます。

松前 知恵子 氏

福島県キャンプ協会 理事・県中支部長

平成6年に福島県キャンプ協会に入会。翌年には、キャンプ・インストラクターを取得し、現在はディレクター1級指導者として、積極的にキャンプの普及・推進に尽力されています。その行動力・ 実践力、また、ざっくばらんな性格から、多くの会員に「知恵子さん、知恵子さん!」と母親のように慕われ、尊敬され、指導者の目標になっておられます。

福島県協会の事業活動の推進役として、「指導者養成」や「BUC 事業」、「2002 年度全国キャンプ大会in 福島」、「森の案内人講座」や、3.11 以後の「災害対応キャンプ」、「県民レクリエーション祭、公民館・郡山市生涯学習課の事業、企業や NPO 法人」、「福島万博・ツアーガイド」、「パネリストとしてテレビ出演」など、外部からの依頼にも応じ、キャンプの楽しさを積極的に広報されています。

また、夫君である松前雅明理事長の補佐役としても内助の功を発揮され、本会運営や事業の発展充実に貢献。平成14年から福島県キャンプ協会・県中支部長、平成24年度からは理事として協会運営に携わり、献身的な活動を展開されています。 (推薦団体:福島県キャンプ協会)

齋藤 猛 氏

栃木県キャンプ協会 理事

学生時代、日光湯元キャンプ村で村長をしていた、故・野澤重治前会長の下での、キャンプ指導の経験が原点になって今があると、おっしゃっています。県協会へは、設立と同時に入会し、現在は理事として運営に幅広く参画をしています。特に、長く県西部ブロックの担当として、地味な役割を全うされて来られました。また、高齢者を対象としたシニアキャンプの担当として、外国人を招くなど、新境地を開いたり、主催事業である自然生活体験キャンプでは、開設準備の労務作業に率先してあたるなど、若い会員の手本になっておられます。日本協会設立50周年記念式典で、永年継続会員として表彰を受けられ、「集いの時間」に、本県協会が出展した「茶の実人形づくり」は、齋藤氏のアイデアによるものです。齋藤氏の多大な功績は、受賞にふさわしいものと云えます。

(推薦団体:栃木県キャンプ協会)

しばはら・ち氏

NPO 法人東京都キャンプ協会

柴原氏は「しばはら・ち」というペンネームで絵本・幼児雑誌・紙芝居など、多数の作品を発表されてきました。代表作には「こんやはすてきなゆきのよる」、「ぱんだぱんだ」、「きえてのこった 長崎かぞえ歌」があります。2013年には「北九州市まんが大賞」の大賞を受賞され、絵本や児童書の画家の団体である、日本児童出版美術家連盟の理事としても活躍されています。

一方、若い頃より「日本児童遊戯研究所」のキャンプ仲間として、その活動を支えて来られ、自らが 主宰するアトリエ「美術クラブなないろ美塾」においても、キャンプ活動を取り入れ、地域で独自の 活動をされています。

東京都キャンプ協会においては、2001 年から 2017 年まで、会報「CAT/LETTER」の編集委員を務め、 読者が最初に目にする表紙を通じて、キャンプの楽しさを伝え、キャンプの意味を考え直すことを試 みてきました。絵本作家としての独創的な紙面構成は、会員にとって毎回楽しみなものとなっていま した。 (推薦団体: NPO 法人東京都キャンプ協会)

武藤 正美 氏

愛知県キャンプ協会 前副理事長

大学生の時から愛知キャンプカウンセラー協会に所属し、キャンプカウンセラーとして活躍し、大学卒業後もキャンプ活動の支援に長く関わって来られました。その経験を活かして、愛知県キャンプ協会の設立時から若いキャンプ指導者の交流・スキルアップに貢献されています。愛知県キャンプ協会を始め、他県の指導者研修会において、キャンプカウンセリング技術や対象者理解についての講師を務めるなど、指導者の育成に長年に渡り貢献されています。愛知県キャンプ協会の役職としては、1991年以降理事の任に付き、25年以上にわたり協会運営に携わっておられます。特に、理事就任後一貫して本協会の会計担当理事として、組織の健全運営に携わってくれています。2009年からは、副理事長として愛知

県キャンプ協会の中長期運営ビジョンの作成の中心役員として組織運営の改革に寄与しています。

(推薦団体:愛知県キャンプ協会)

前山 亨 氏

滋賀県キャンプ協会 顧問・前会長

大学時代に学んだキャンプに関する豊かな知識と経験を活かし、学校や地域でのキャンプ活動の普及と指導者の養成・育成に関わってこられる等、滋賀県のキャンプ指導者の第一人者として活躍されてこられました。これらの経験をもとに、1987年3月1日に発足した滋賀県キャンプ協会の設立に向けて尽力されるとともに、当初は、副会長兼理事長として、また、1992年からは会長として、長きにわたり協会の運営を牽引され、滋賀県キャンプ協会の礎を築いてこられました。30年にわたる貢献は多大であり、当協会の総意としてアワードに推薦し、ますますのご活躍を期待するところです。

(推薦団体:滋賀県キャンプ協会)

特定非営利活動法人 キャンピズ

キャンピズは、1998 年、障がい者や高齢者など、キャンプやその他野外でのレクリエーションの機会に恵まれない人の活動を支援するために設立された NPO 法人です (法人認証は 2002 年)。

この 20 年間、毎月 1 回のグループキャンプや夏休みの 10 泊キャンプ、発達障がい児のためのキッズキャンプなど、年間約 $40\sim50$ ものキャンプを実施しておられます。

また、海外キャンプにも積極的で、これまでオーストラリア、モンゴル、ハワイでもたくさんの障がい者と一緒にキャンプをしています。現在、障がい者(キャンピズクラブ会員)、支援するボランティア(キャンピズメイト)ともに約100名の会員がいます。2017年からはキャンプにとどまらずウイングを広げ、障がい者の就労支援事業と子ども食堂事業も展開されています。

(推薦団体:大阪府キャンプ協会)

三枝 隆 氏

奈良県キャンプ協会 会長

三枝氏は 1983 年に奈良 YMCA に奉職、以来キャンプ指導者として経験を重ね、その後、名古屋 YMCA では「フィリピンワークキャンプ」など国際交流キャンプ団長としても、活動されてきました。その後、奈良 YMCA へ戻り、2015 年度から現在に至るまで奈良 YMCA 総主事として従事されておられます。奈良県キャンプ協会には、2007 年度から理事として関わり、YMCA で培われた能力を発揮され、奈良県キャンプ協会発展のために尽力されています。特に、事務局を奈良 YMCA に設置し、協会の事務運営には、多大なる貢献をしておられます。

大森 庸司 氏

島根県キャンプ協会 常務理事

昭和36年、ボーイスカウト活動のアジアジャンボリーを契機にキャンプ活動を始められ、大学では 社会福祉学の一環として「障害児療育キャンプ」を学ばれました。その後、社会教育主事、公民館主 事として「青年学級」、「ボーイスカウト」、「子供会」でのキャンプの運営に当たられて来られました。 平成8年、島根県キャンプ協会の「石西キャンプ協会」の設立に中心的な役割を果たされ、その後も地元益田市の「児童館」、「知的障害者施設」、「益田レク協会」などを中心にして、地元自治体・教育委員会、青少年育成団体との密接な連携を図ってキャンプ活動の輪を拡げられました。その後D2・D1資格を取得され、地域の青少年の健全育成のための教育キャンプの企画・運営に中心的な役割を果たしておられます。また、島根県キャンプ協会の常任理事として、インストラクター養成事業、BUC事業にも積極的に取り組んでおられ、その経験は本県協会にとっても大変貴重な財産であり、後輩への技術継承などの任務に今後もますますの活躍が期待されています。

(推薦団体:島根県キャンプ協会)

下山 健二 氏

岡山県キャンプ協会 副会長

岡山県キャンプ協会結成当初からの会員であり、それ以前は京都府宇治野外活動協会に所属され、キャンプを中心とした野外活動に尽力されて来られました。宇治時代には、自衛隊勤務のかたわら、宇治市立炭山キャンプ場の運営管理に中心的な役割を果たされ、特にマネジメントでは、絶大な力を発揮されて来られました。

ふるさと岡山に帰岡された当時は、京都府キャンプ協会に所属されていましたが、岡山県キャンプ協会が発足してからは、岡山県キャンプ協会の事業に積極的に参加され、現在副会長として県協会の主催キャンプのみならず、あかいわ地域指導者の会のトップとして、子ども自然体験キャンプの運営に携わるなど、キャンプの発展に多大な貢献をされておられます。 (推薦団体:岡山県キャンプ協会)

小田 長 氏 広島県キャンプ協会 理事

広島 YMCA スタッフとして 1980 年代から広島県の青少年の健全育成の一環として、キャンプの普及と発展に尽力され、広島県キャンプ協会設立時のメンバーの一人として、協会を支援して来られました。日本キャンプ協会キャンプディレクター1 級養成講習会の講師も努められ、指導者養成にも尽力されました。広島 YMCA を定年退職後は、広島女学院大学のボランティアセンター長として、キャンプを通じた学生ボランティア養成をおこないながら、江田島青少年交流の家など、関係する団体で指導者養成講習会の講師を歴任されてきました。

2012年に広島県キャンプ協会西部支部である、はつかいちキャンプ協会の設立とともに支部協会会長を務め、県協会では副会長として、広島県のキャンプの更なる普及振興に貢献し、多くの功績を残してこられました。2018年度からは県協会の組織運営を若手に委ね、理事として協会のさらなる発展を支援しておられます。 (推薦団体:広島県キャンプ協会)

宮里 勉 氏

沖縄県キャンプ協会 理事

昭和 60 年 (1984 年) に設立した沖縄県キャンプ協会の設立発起人の一員として尽力され、設立以降 は事業担当理事として協会の運営に関わって来られました。以後、各イベントを通じて当協会の目標と する、安全な楽しいキャンプを伝えることでキャンプの普及・振興に大きく寄与されました。

また、教職員および沖縄県名護青少年の家在職中は専門職員として、沖縄の子供達に野外活動の楽し

さを指導、平成 26 年に当協会の理事長に就任、同時に広範囲な人的交流で、関係機関や団体等との協力関係を保ち、当協会の運営はもとより、各事業の企画・運営・実施・事務処理に至るまで、献身的に関わって頂きました。今後は指導者の育成、プログラムの実施および研究開発、実施に関する指導・助言などを通して、当協会の発展、並びに県内の青少年健全育成事業にますますの活躍が期待されております。

(推薦団体:沖縄県キャンプ協会)

鳥井 信吾 氏

公益社団法人日本キャンプ協会 元副会長

鳥井信吾さんは、現在サントリーホールディングス株式会社の代表取締役副会長として、日々奔走されています。鳥井氏は、2007年から2018年6月まで、長きに渡り日本キャンプ協会の理事・副会長を務められ、特に、日本キャンプ協会の45周年並びに50周年の記念行事の際には、多大な支援や協力を惜しまず、常に本協会のために尽力されました。

キャンプとの出会いは、中学生の時、酒井哲雄氏(名誉会長)がキャンプ長を務めていたキャンプに参加したことがきっかけで、キャンプファイアーを囲み、皆の前で静かに話された酒井氏の言葉は一生忘れることができないそうです。それは、「遠い、遠い昔のこと、人類の祖先は火を見ながら語り合うことで、互いに理解し、また長老は皆に一つの方向を示した。」というものでした。遠い先祖達が見たその同じ火を今見ていると感じ、心に染み入るような時間だったと、理事就任時の「CAMPING124号」のエッセイに想いを綴られています。 (推薦団体:公益社団法人日本キャンプ協会)



公益社団法人日本キャンプ協会 2018・2019 年度 役員

(2019年3月31日現在)

名誉会長		酒井	哲雄	元頌栄保育学院 理事長					
顧	問	斉藤	保夫	元城西大学教授					
顧	問		幸生	元(一財)日本健康開発財団 専任講師					
顧	問	野間口		元(一月)日本健康開発財団 导任講師 元東海大学 教授					
顧	問	長谷川		(一社)日本オートキャンプ協会 名誉会長					
顧	問	野澤	巖	元埼玉大学 教授					
顧	問		宏英	元大阪体育大学 学長					
顧	問		易司	元秋山学院大学 副学長					
顧	問		大郎	元州山子院入子 副子校 元日本キャンプ協会 事務局長					
准只	lH1	пш	/\Ali	ルロやコヤンノ 励云 事伤川区					
会	長	星野	敏男	明治大学 教授					
副会	、 E.	神﨑	清一	(公財)日本YMCA同盟 総主事					
町工	· ×	个中型可	行	(公則)日本IMCA回监 総主事					
専務理事		平田	裕一	至学館大学 副学長・愛知県キャンプ協会会長					
常務理事		藤枝	隆	東京農業大学オホーツクキャンパス事務部長兼学術情報センター事務室長					
常務理事		野口	和行	慶應義塾大学 准教授					
理	事		公一	(公財)ボーイスカウト日本連盟 事務局長					
理	事		恭子	(公社)ガールスカウト日本連盟理事・国際コミッショナー					
理	事		由美	女子美術大学 非常勤講師					
理	事		孝子	(NPO)エコプラス 代表理事					
理	事		廣喜	㈱NHKグローバルメディアサービス チーフ・プロデューサー					
理	事	髙見	彰	大阪国際大学 教授・兵庫県キャンプ協会 会長					
理	事	針ヶ谷		明治大学 兼任講師					
理	事		吉直	信州大学 副学長					
理	事		史織	(公財)東京YWCA 青少年育成事業部キャンプ課マネージャー					
理	事		義光	青森県キャンプ協会 副会長(北海道・東北ブロック)					
理	事	高橋	淳	栃木県キャンプ協会 理事長(関東ブロック)					
理	事		正義	静岡県キャンプ協会 副会長(中部・北陸ブロック)					
理	事		義伸	滋賀県キャンプ協会 理事長(近畿ブロック)					
理	事	奥田	祐子	広島県キャンプ協会 会長(中・四国ブロック)					
理	事	寺田	太郎	宮崎県キャンプ協会 副会長(九州・沖縄ブロック)					
				理事 以上 20 人					
監	事	井上	透	岐阜女子大学 教授					
監	事	小田原		(公財)日本レクリエーション協会 事務局長					
監	事		初雄	(NPO) 国際自然大学校 理事長					
	-	,,	~ · · · ·	EL-t NI L o L					

監事 以上3人

公益社団法人日本キャンプ協会 2018・2019 年度 運営委員

(2019年3月31日現在)

執行理事会

星野 敏男(会長) 明治大学 教授

神﨑 清一(副会長) (公財) 日本 YMCA 同盟 総主事

平田 裕一(専務理事) 至学館大学 副学長・愛知県キャンプ協会会長 藤枝 隆 (常務理事) 東京農業大学オホーツクキャンパス 事務部長兼

学術情報センター事務室長・東京都キャンプ協会

野口 和行(常務理事) 慶応義塾大学 准教授

高見 彰 (理事) 大阪国際大学 教授・兵庫県キャンプ協会 会長

鈴木 由美(理事) 女子美術大学 非常勤講師 神谷 稔 (総務委員) 埼玉県キャンプ協会理事

CAMPING 編集委員会

野口 和行(委員長) 日本キャンプ協会 常務理事

青木 康太朗 (独法)国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター 研究員

翠尾由美麻布子ども中高生プラザ山梨雄一(公財)東京YMCA 職員

山本 直輝 (公財)ハーモニィセンター 事務局長補佐

吉松 梓 新潟医療福祉大学 講師

指導者養成委員会

鈴木 由美 (委員長) 日本キャンプ協会 理事 遠藤 知里 常葉大学短期大学部 准教授

 冨山
 浩三
 大阪体育大学 教授

 中村
 正雄
 大東文化大学 教授

吉田 理史 SATOYAMAそだち 主宰

ビジョン 2020 推進委員会

今井 正裕(委員長) (一財)大阪府青少年育成財団 事業部長

藤枝隆日本キャンプ協会 常務理事高見彰日本キャンプ協会 理事田丸良明石川県キャンプ協会

引間 紀江 (独法)国立女性教育会館 専門職員

地域連携委員会

佐東 治 北海道・東北ブロック 山形県キャンプ協会 藤枝 隆 関東ブロック 東京都キャンプ協会 向島 克明 中部・北陸ブロック 静岡県キャンプ協会 甲斐 知彦 近畿ブロック 兵庫県キャンプ協会 廣見 美佐 中国・四国ブロック 高知県キャンプ協会 九州・沖縄ブロック 福岡県キャンプ協会 築山 泰典

総務委員会

神崎清一日本キャンプ協会 副会長神谷稔日本キャンプ協会 総務委員

キャンプミーティング実行委員会

野口 和行(委員長) 日本キャンプ協会 常務理事

青木 康太朗 (独法)国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター 研究員

遠藤 知里 常葉大学短期大学部 准教授

永吉 英記 国士舘大学 准教授

柳下 史織 (公財)東京 YWC A青少年育成事業部キャンプ課マネージャー

佐藤 冬華 筑波大学 大学院生

WEB サイト検討タスクチーム

神﨑 清一 日本キャンプ協会 副会長

引間 紀江 (独法)国立女性教育会館 専門職員

(2019年3月31日現在)

事務局職員

事務局長依田智義(全体統括)事務局次長秋山千草(法人事務)主任主事吉野宏美(公1・2事業)主事前田將太(公2・3事業)主事五月女 真弓(公1・3事業)

静岡県立朝霧野外活動センター職員

所		長	太田	恒義	指	導	職	1	小西	ī	岳勝
副	所	長	齋藤	祐幸	指	導	職	<u> </u>	と林	Į	雅貴
コーラ	ディネー	ター	太田	正義	指	導	職	#	上條	- 2	友加里
事	業 課	長	櫻井	良樹	アル	ンバイ	イト	ナ	大﨑	1	建太
指	導	職	保科	哲也	アハ	ノバイ	イト	团	可原	ſ	建太
指	導	職	向島	克明	アル	ンバイ	1 ト	木	乡山	3	奈都子



〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター内 TEL:03-3469-0217 FAX:03-3469-0504

Email:ncaj@camping.or.jp